

2007年12月17日

(報道用資料)

合成開口レーダ(SAR)衛星「TerraSAR-X」のサービスを開始
～2007年12月17日より、オーダー撮影受付を開始～

株式会社パスコ(本社:東京都目黒区、代表取締役社長:杉本陽一、資本金:87億円、セコムグループ、東証1部)は、撮影された画像データの日本国内における独占販売権と全世界への販売権を取得しているドイツの商用合成開口レーダ(SAR)衛星「TerraSAR-X(テラサー・エックス)」のデータサービスを2007年12月17日より順次開始し、2008年1月中旬より全世界で一斉開始します。

TerraSAR-Xは、衛星本体からマイクロ波を照射し、地表面あるいは地上の対象物から反射・散乱されて戻ってくるエコーを受信する能動型センサを搭載しており、昼夜間を問わず撮影することができます。さらに、マイクロ波センサを用いているため、雲や雨の影響を受け難く、災害発生時に大きな威力を発揮することが期待されるとともに、従来のマイクロ波センサとは異なる短い波長のため、高解像度(最大分解能:1m)の画像を取得することが可能となり、地表面の細かな情報を取得することができます。

■撮影データの販売概要

販売価格は個別に撮影オーダーを受ける場合で、1シーン(1回の撮影範囲:約50平方キロメートル(5km×10km)から約1万5千平方キロメートル(100km×150km))あたり50万4千円から126万円を予定しており、撮影する画像の解像度の選択や撮影オーダーの優先度の変更などオプションサービスを備えています。

【オーダー撮影】

- ・ 高分解能 SpotLight モード 分解能:最高 1m (10km×5km)
- ・ SpotLight モード 分解能:最高 2m (10km×10km)
- ・ StripMap モード 分解能:最高 3m (30km×50km)
- ・ ScanSAR モード 分解能:最高 16m (100×150km)

【アーカイブデータ販売】

- ・ 2008年度より開始予定

【オプションサービス】

撮影優先度設定(「標準撮影」、「優先撮影」、「最優先撮影」を設定し、緊急撮影を承ります)

- ・ 画像補正(地図投影、幾何補正)
- ・ 偏波(電波の照射方向の設定、二重偏波、四重偏波)

■ 今後について

パスコは、50年以上培った航空写真の画像解析技術と環境・防災をはじめとする調査技術、地理情報システム(GIS)によるコンピューターマッピング技術を統合し、新たなソリューション提供を本格始動します。パスコは長年にわたり、航空機を用いた災害発生時の被災状況の把握を実施しており、今回、全天候型の人工衛星が加わることで、災害発生時の更なる早期被害情報の取得が可能となります。また、雲の影響により撮影が困難であった地域の地図作成や天候の影響に左右される農作物の収穫予測、CO2削減の核となる森林伐採の監視など、パスコが保有する調査解析技術を用いて世界規模で事業を展開していきます。

■ お問い合わせ先

(報道関係者様から)

株式会社パスコ 戦略企画部広報宣伝グループ TEL:03-3715-1048

(お客さまから)

株式会社パスコ カスタマーセンター TEL:0120-494-80

■ サンプル画像

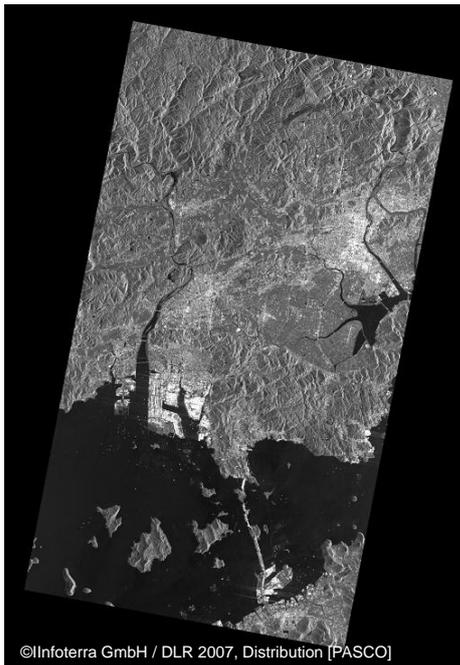
【高分解能 SpotLight モード】 東京



撮影日: 2007年8月11日 / 撮影幅 10km

偏波: HH / 入射角: 42.18度 / 撮影方向: Descending / 分解能: 約 1.6m

【StripMap モード】 岡山



撮影日: 2007年10月31日

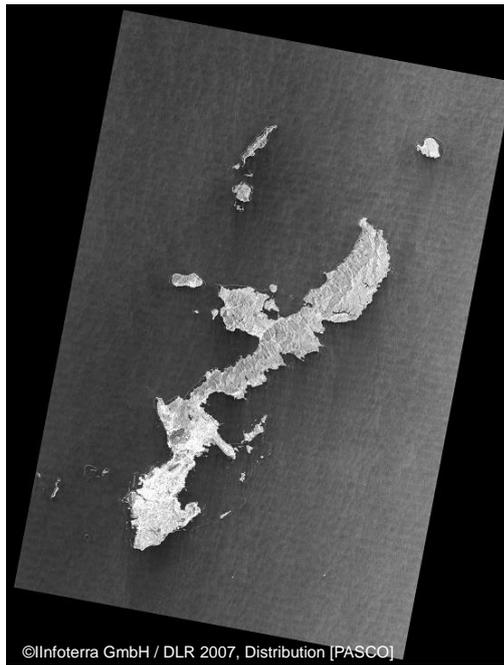
撮影幅: 30km

偏波: VV / 入射角: 37.3

撮影方向: Descending

分解能: 約 3m

【ScanSAR モード】 沖縄



撮影日: 2007年10月19日

撮影幅: 100km

偏波: HH / 入射角: 36.31度

撮影方向: Descending

分解能: 約 17m